

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録や通常の診療で行った検査の後に保管されている残った試料（血液・細胞・排泄物など）を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテや保管されている試料（血液・細胞・排泄物など）を利用することにご了解いただけない方は、以下の【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】

エンホルツマブベドチンによる皮膚障害に関する研究

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院

【研究機関の長】 杉山隆（病院長）

【研究責任者】 吉田 諭（皮膚科 助教）

【研究の目的】

局所進行性/進行性尿路上皮癌は予後が悪い悪性腫瘍の一つである。局所進行性/進行性尿路上皮癌に対する一般的な抗癌剤治療として、プラチナベースの化学療法や免疫チェックポイント阻害剤投与がまず行われ、その治療が不応であった場合はエンホルツマブベドチンが使用される。

臨床的な問題点として、エンホルツマブベドチンを投与した多くの症例に皮膚障害が出現し、スティーブンスジョンソン症候群や中毒性表皮壊死融解症などの重症例が多くみられる。エンホルツマブベドチンにより、皮膚障害が出現しやすい因子や皮膚障害が出現するかどうかを予見できる因子は、解明されていない。この臨床研究の目的は、エンホルツマブベドチンを投与した多くの局所進行性/進行性尿路上皮癌患者に皮膚障害が出現し、重症例が出現しやすい原因を解析することである。

エンホルツマブベドチンのターゲット分子であるネクチン 4 の発現に関する後方視的研究として、ネクチン 4 の皮膚での発現の個体差や疾患によるネクチン 4 発現の違いについて検討をするため、愛媛大学附属病院にて保管している検体

を用いて検討する。

【研究の方法】

(対象となる患者さん) 愛媛大学皮膚科で診療を受けた皮膚病の症例
アーム 1 (50 例) : 皮膚疾患のない健常皮膚(皮膚腫瘍や皮下腫瘍などを切除手術した際に一緒に採取された正常皮膚)
アーム 2 (20 例) : 重症薬疹を起こした症例の皮膚(ステイヤーヴンスジョンソン症候群、中毒性表皮壊死症など)
アーム 3 (20 例) : 免疫チェックポイント阻害剤により皮膚障害を起こした皮膚
アーム 4 (20 例) : 皮膚炎のある皮膚(アトピー性皮膚炎など)
選定期間 : 2000 年以降に愛媛大学皮膚科で診療を受けた皮膚病の症例。

(利用するカルテ情報) 性別、年齢、現病歴、病変や生検の部位、病型、皮疹の症状、血液検査、尿検査、生検検査、心電図検査、心臓超音波検査、病理診断などをカルテ情報

(利用する試料) 通常の診療で使用した後に残った試料 (細胞)

【個人情報の取り扱い】

収集した試料・情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を削除いたします。そのため個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

<試料・情報の管理責任者>

愛媛大学医学部附属病院 皮膚科 吉田 諭

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院皮膚科 吉田 諭
791-0295 愛媛県東温市志津川 454
Tel: 089-960-5350